

会議速報

平成 27 年 3 月 30 日ホームページ掲載

開催概要

- 名 称：平成 26 年度 第 2 回新潟市食育推進会議
- 日 時：平成 27 年 3 月 25（水）午後 2 時～午後 4 時
- 場 所：食育・花育センター2 階 講座室 A
- 出席委員：石原委員、井上委員、岩田委員、岡崎委員、小柴委員、坂井委員、須田委員、瀬倉委員、立山委員、田中委員、藤田委員、二木委員、牧野委員、村山委員、諸橋委員、山下委員、横田委員、渡辺委員
(欠席：五十嵐委員、市野瀬委員)
- 事務局：松宮農林水産部長、大谷食育・花育センター所長、佐藤教育ファーム推進担当ディレクター、佐藤教育ファーム推進担当主査黒崎食育係長（司会）、和田主査、小林栄養士
- 関係課：平澤副参事、瀧澤保健所健康増進課長補佐、笹谷保健所健康増進課健康づくり推進室主査、本間保健所食の安全推進課長補佐、梅沢農業政策課生産政策係長、大桃食と花の推進課主事、多賀保健給食課長補佐、星野保健給食課給食係長

概要

- 1 平成 26 年度 重点課題への対応状況及び食育・花育センターの食育関連事業実施状況について【資料 1-1】【資料 1-2】【資料 1-3】【資料 2-5】

（事務局説明）

- ・ 資料を基に、平成 26 年度の重点課題への対応状況と食育・花育センターの食育関連事業実施状況について説明。

（主なご意見等）

- ・ 大変幅広い活動をやっている。食育というと健常者向けとなりがちだが、特別支援学校向けや障がい者向けにも対応している点が良い。続けて行ってほしい。
- ・ 菌ちゃん野菜・漬物作りには興味がある。核家族化の影響もあるのかもしれないが今の子どもたちは漬物をあまり食べない。自分で漬けることが食べるきっかけになると思うし、漬物作りを通して高齢者とのコミュニケーションの機会も生まれると思う。
- 食育マスターとして活動のあった委員からのご意見
 - ・ 食育マスターとして、主に保育園や小学校で子どもたちに対する活動の講師を務めている。食育と一言で言っても、何をすればいいのかわからないといった形での依頼が多いと感じている。
 - ・ 家に帰ってからも実践できるように、イベント的な形にはしていない。やった・できたで終わらない、その後の食への興味・関心につながるよう心がけている。

- ・ 今後は、食育マスターが学べる機会、例えば障がいをお持ちの方に対しての接し方といったようなことを設けてもらえるとよい。
- ・ 食育マスターとして、郷土料理の作り方に関する依頼が多いが、そこに健全な食生活のことや行事食といった要素を盛り込んでいる。
- ・ 食育マスター制度ができたことで、小・中学校に地域の人が入っていきやすくなり、地域一体での活動につながっていると感じている。
- ・ 食育マスターということでの問い合わせも多くなっており、制度自体も定着してきていると感じている。

2 平成 27 年度 食育関連事業及び予算について

【資料 2-1】【資料 2-2】【資料 2-3】【資料 2-4】【資料 2-5】

(事務局説明)

- ・ 資料を基に、平成 27 年度の食育関連事業及び予算について説明。

(主なご意見等)

- ・ 味覚の教室について、目的は味覚に親しむということか。味覚に関する取り組みについては素晴らしいことなので、ぜひ実施してほしいが、正しい味覚ということだけではなく、硬い・柔らかいとか、温かい・冷たいとかといった要素も入れてほしい。
- ・ 味覚の教室について、今年度山田小学校で 5・6 年生を対象に実際に行った。5 つ味のことや五感に関する講義、実際に昆布などでとっただし汁を口にするなどの体験をした。子どもたちの中にはだしやそのうま味といったことを初めて意識したという子もいて、意義深い内容だった。
- ・ 味覚の教室を実際に行う場合には、前半に講義・後半に調理実習という形を崩さないほうがよい。
- ・ 味覚の教室の小学校編については、子どもだけではなく保護者も参加してもよい。一緒に体験することで、家に帰ってからも共通の話題となり、その後にもつながると考えられる。
- ・ 味覚の教室の小学校編の 30 人 3 学級で同時に開催できるようにとはどういうことを指すのか。
- ・ 食育マスター制度を拡充しているが、今後はそれを上回る申請があった場合には打ち切りとするのか。
- ・ アグリパークで実施しているプログラムの中で、特に人気があるものはどのようなものか。

3 第 3 次新潟市食育推進計画の策定について

【資料 3-1】【資料 3-2】

(事務局説明)

- ・ 資料を基に、第 3 次新潟市食育推進計画の策定について説明。

(主なご意見等)

- ・ 特になし。

4 その他（全体を通してのご意見とう）

- ・ 説明のあった内容が、小さい子どもをお持ちでない方にもよく見えるようになるとうい。
- ・ アグリパークの利用について、6月からの平日が既に予約で一杯というのはよいこと。ただ、混む時期とそうでない時期があると思うので、予約が競合した場合にはどのように対応しているのか。時期をずらしても希望するプログラムを実施できるのか。
- ・ 関連事業の中で、セカンドライフ農業体験に新規で取り組むということだが、定年直後はまだまだ元気で、人の役に立ちたいという方は多い。そういった方が農業を生きがいと感ずることができるようにしてほしい。
- ・ 説明のあった内容を聞いてとても良いという印象を持っている。お手伝いできる部分については協力していきたい。
- ・ 新潟市は農業特区に指定されたが、その中で食育はどういった関連付けをしていくのか。
- ・ 食育の日の取り組みに参加している。お客様の健康に対してのニーズが高まっていると感ずている。ただ商品を並べるだけではなく、旬のものを意識したり、食材の由来をわかるようにしたりと工夫している。
- ・ 東アジア文化都市については3カ国だが、今後それ以外の国とも考ずているのか。
- ・ 子どもたちにとってはたくさんのプログラムがあるのでよい。在学中に1回だけでなく、何回も参加できるとよい。
- ・ 菌ちゃん野菜づくりの研修会に参加した際のにんじんがとてもおいしかった。子どもたちが自分で野菜を育てそれを調理して食べるという一連の体験ができるようになるとうい。
- ・ ライフスタイルごと、ライフステージごとに取り組みがされていると感ずる。それらを全て体験したら市民はどうなるのか、どうなっていてほしいのか描けているとうい。
- ・ 料理教室に参加した人たちが、その後も交流できる、交流を促す仕掛けがあるとよい。
- ・ これだけの内容を、これだけわかりやすく説明できているのは素晴らしい。
- ・ 食育について、栄養士の立場に立つとどうしても栄養の部分に縛られがちだが、もっと幅広く活動することができるはずなので、栄養士を積極的に活用してほしい。
- ・ スポーツ栄養という分野で取り組みを始めている栄養士がいるので、活躍できる場がもっと増えてくるとよい。
- ・ アグリパークで開催された研修会に参加して大変感動した。保育園では年間の食育計画を立てているが、これまでの内容に加えて、土作りから始めて体験の質を上げたいと思う。
- ・ 今後も定期的に研修会等を開催してほしい。
- ・ 報道関係の中でも生活面を担当しているが、読者の食や健康への関心は非常に高いと感ずている。今回様々な立場のお話が聞けてよかった。
- ・ 記事にすると、イベント的なところに目が行きがちで、本来伝えたい全体を底上げするような取り組みはなかなか内容が伝わりづらい。だからといって、単発のイベント的なことで終わらせず、続けてほしい。

会議資料

- 次第
- 座席表
- 資料 1-1 平成 26 年度 食育推進における重点課題への対応状況
- 資料 1-2 平成 26 年度 食育・花育センター 食育関連事業の実績
- 資料 1-3 平成 26 年度 新潟発 わくわく教育ファーム推進事業の実績
- 資料 2-1 平成 27 年度 当初予算主な事業（食育推進計画関連事業抜粋）
- 資料 2-2 平成 27 年度 食育・花育センター 当初予算の概要
- 資料 2-3 平成 27 年度 いくとびあ食花団体体験プログラム集
- 資料 2-4 平成 27 年度 食育推進事業の拡充内容について
- 資料 2-5 平成 27 年度 新潟発わくわく教育ファーム推進事業の拡充内容について
- 資料 3-1 第 3 次食育推進基本計画の今後の検討スケジュール（案）
- 資料 3-2 第 3 次新潟市食育推進計画の策定について
- 事前送付資料
- 当日配布資料

次回開催

- 日 時：平成 27 年 8 月（予定）
- 場 所：未定

※ 詳細については、後日、改めて掲載いたします。